

Nunc Dimittis 知っておきたいキリスト教のことば (158)

ヌンク デイミティス

ヌンク・デイミティス ぬんくでいみていす

今回は「ヌンク・デイミティス」についてです。と言いましても、この言葉はクリスチャンでも知っている人少ないと思います。ではなぜここで取り上げるのか。答えは簡単です。「ぬ」から始まる適当な言葉が他に見つからなかったからです。

それはともかく、「ヌンク・デイミティス」とはラテン語で、「今、去らせてくださいます」という意味です。この言葉に聞き覚えはないでしょうか。

ルカによる福音書 2 章 22 節以降には、イエス様が神殿にささげられる話が出てきます。律法に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」という決まりがあったため、ヨセフとマリアはエルサレムの神殿に赤ちゃんのイエス様を連れて行きます。そのときに神殿にいたシメオンが語り出したのが、「主よ、今こそあなたは」から始まる「シメオンの賛歌」です。(ラテン語と日本語では語順が違い、ラテン語では「ヌンク・デイミティス」が最初に来ます。)

日本聖公会の祈祷書では、夕の礼拝や就寝前の祈りでシメオンの賛歌を用います。日が沈んでこれから眠りにつくことと、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なないとお告げを聖霊から受けていたシメオンがイエス様に会い、神さまの元に向かうことが結び付けられているようです。

なお、ルカによる福音書 2 章 31～32 節で「異邦人」と書かれているところが、祈祷書では「すべての人」となっています。確かに礼拝の中で「異邦人」といっても、他人ごとのようになってしまいます。「すべての人」と言われた方が、自分も関係する祈りとして唱えやすいかもしれません。神さまのご計画がおこなわれていることに感謝して、眠りにつきましょ。

次回は「熱心党」です。お楽しみに。



「抱神者シメオン」

アレクセイ・イエゴロフ

(1776～1851 年)

主よ、今こそあなたは、お言葉どおりこの僕を安らかに去らせてくださいます。

(ルカによる福音書 2 章 29 節)

